

中小企業診断士の視点

第115回 小さいイノベーションの4つの考え方



中小企業診断士 丸山 龍太郎
(一社)埼玉県中小企業診断協会

「イノベーション」と聞くと難しい事とを感じる方も多いかもしれません。しかし、その原点は身近な組み合わせにあります。経済学者シュンペーターはこれを「新結合」と呼び、既存の技術や知識を組み合わせることで価値が生まれると説明しました。本稿では、中小企業が実践しやすいイノベーションを4つの視点・実践方法・事例から紹介します。

【イノベーションを理解する4つの視点】

1. 組み合わせの視点（新結合）

イノベーションは、自社の「強み」と市場の「機会」を掛け合わせて生まれます。例えば高度な加工技術という強みと節水ニーズという機会が重なれば、新製品の可能性が広がります。つまり強みだけでは成果にはならないのです。この整理に役立つのが「S×O分析」(Strength=強み×Opportunity=機会)と「アンゾフのマトリクス」です。アンゾフのマトリクスは「既存商品×既存市場」「新商品×新市場」など4分類で成長方向を示します。

2. 人・組織の視点

同じ価値観で事業を続けると発想は生まれにくくなります。外部視点や異なる経験を持つ人材を取り入れることで発想が生まれ組み合わせが広がります。

3. 探索の視点（両利きの経営）

イノベーションには既存事業を深める「深化」と未知を探す「探索」の両立が必要です。1960年前後の本田技研工業の米国バイク事業は、現地の試行錯誤から創発的に成功方向を見いだした例です。なおAIは既存データに依存し、偶然の出会いが期待できず、また目的意識を持っていないため探索の主体になれません。探索とは場所を変え、人に会い、異世界に触れることで認知を広げる、人にしかできない行動です。AIの活用が広まる中、人にしかできない探索の重要性が高まっています。

4. オープンイノベーション

外部企業や専門家、異業種との組み合わせにより、自社だけでは生み出せない価値が生まれます。

【中小企業が実践する方法】

1. 組み合わせ（強み×機会）の明確化

S×O分析やアンゾフのマトリクスで頭の中のアイデアが整理されます。

2. 同質化を避ける組織づくり

新規事業は既存組織と切り離すことで動きやすくなります。

3. 知の探索：場所を変え、人に会い、外に触れる探索はAIでは代替できず、人が主体となるべき活動です。

4. オープンイノベーション：外部と組む

不足する技術は外部から導入することで可能性が広がります。

【事例：後付け節水ノズルA社】

1. 高度金属切削技術（強み）×節水需要（機会）

2. 後継者は家業に入らずデザイン会社を起業し外部視点を獲得

3. 他社提案をきっかけに創発的に着想

4. 家業の技術協力で試行錯誤し開発成功

中小企業診断士は強み整理、探索設計、組織づくりまでご支援できます。お気軽にご相談ください。

【問い合わせ先】

(一社)埼玉県中小企業診断協会

ホームページ：<https://sai-smeca.com/>

電話：048-762-3350

Eメール：rmcsai@nifty.com